



効果

1

生活の質の向上効果

-主な効果事例-

バス・鉄道の本数・便数の増加

住居系地価の上昇

温室効果ガスの排出量の減少

2

安全・安心効果

-主な効果事例-

生活道路の交通量の減少

交通事故件数の減少、踏切事故の解消

災害時の代替機能の確保

3

生産性向上効果

-主な効果事例-

企業立地件数の増加

求人・雇用者数の増加

観光消費額の増加

歩くと楽しい。
そんな街並みが
出来ました。

国内外問わず多くの方が訪れる、京都・四条通。

人と公共交通優先のまちづくりにより

友人や家族と快適に歩ける空間が生まれました。

事業名称 :「人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通」歩道拡幅事業

事業箇所 : 京都市東山区宮川筋1丁目～京都市下京区長刀鉢町
事業延長 : 1,120m
幅員 : 22m
事業費 : 約29億円(付帯工事等、事業継続中のため概算額)
事業期間 : 平成25年度～平成27年度
(地上機器移設等の付帯工事は平成30年度完成予定)



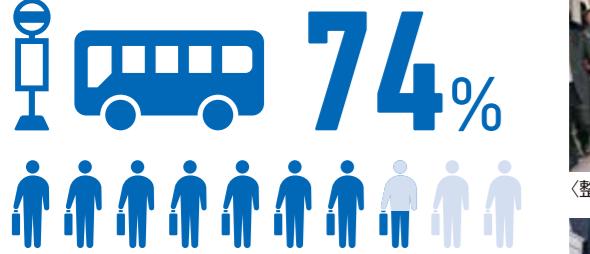
事業効果

歩くと楽しい
四条通

86.2%

歩道の幅を約2倍に拡げたことで、友人や家族と一緒に横並びでゆったり歩け、周辺の商業施設などへも行きやすくなり、歩いて楽しいと感じる人が増えました。

四条通の快適なバス待ち



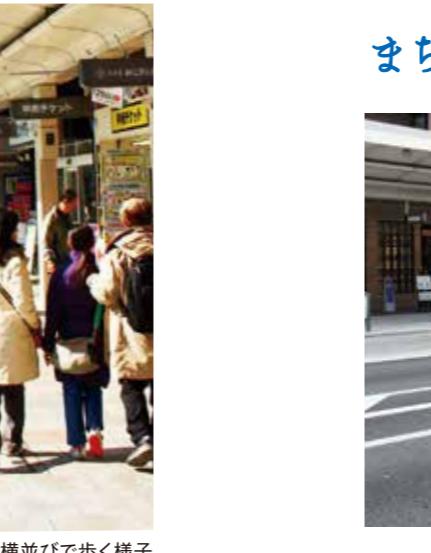
バス停を車道に張り出したテラス型にすることで、74%の方が快適にバス待ちできるようになったと回答しました。



みんなで歩く、
並んで歩ける四条通



歩行形態が変化し、友人や家族と一緒に横並びで歩く人が増えました。

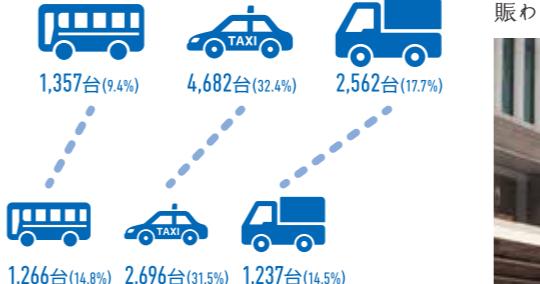


ゆったりとした歩行空間で横並びで歩く様子

その他の事業効果

自動車交通量の減少

※四条烏丸交差点東側断面



四条通を通過する車両台数が減少するとともに、公共交通(バス・タクシー)の割合が全体の約5割に増加しました。

賑わいが増えました

整備前に四条通周辺に訪れたことのある人のうち約6割が以前より賑わいを感じています。また、歩行者の交通量も増加傾向です。



祇園祭で賑わう四条通

まちの変化



人の乗降・荷物の積み下ろしを円滑化

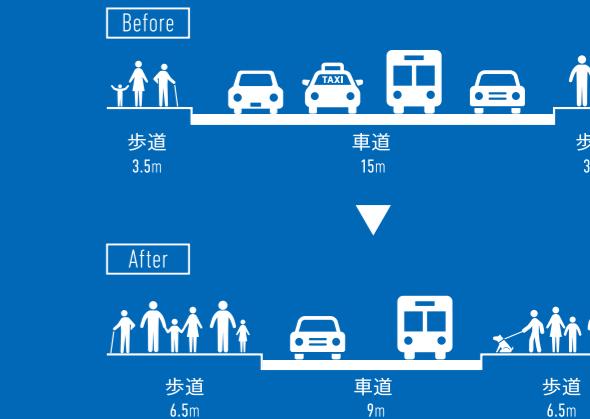


タクシー乗り場の設置で車道の通行をスムーズに



四条通の周辺道路にも賑わいが波及

車線を減らして
歩道を拡げて
ヒトを増やす。



四条通は、幅員15mの車道に1時間あたり約2,200人が車で移動しています。その一方、幅員7mの歩道を1時間あたり約7,000人が利用しており、車道と歩道がアンバランスな状況でした。

また、バス利用者と歩行者が歩道で輻輳するなど、通行もままならない状況がありました。

さらに、タクシーやトラックなど、沿道にアクセスする車両がほぼ隙間なく駐停車し、その影響でバスがバス停に正着できず、利用者は一度車道に出てから乗降している状況でした。

そこで、「歩くまち・京都」総合交通戦略のシンボルプロジェクトとして、片側2車線を1車線に減少させるとともに、歩道を約2倍に拡げ、用地買収を行わずに歩道と車道の空間再配分を行いました。また、テラス型バス停の導入や、人の乗降・荷物の積み降ろしに利用できる沿道アクセススペースを設置し、歩行者の快適性と公共交通の利便性を高めました。

移動だけじゃない。
駅を楽しむ時間が
生まれました。

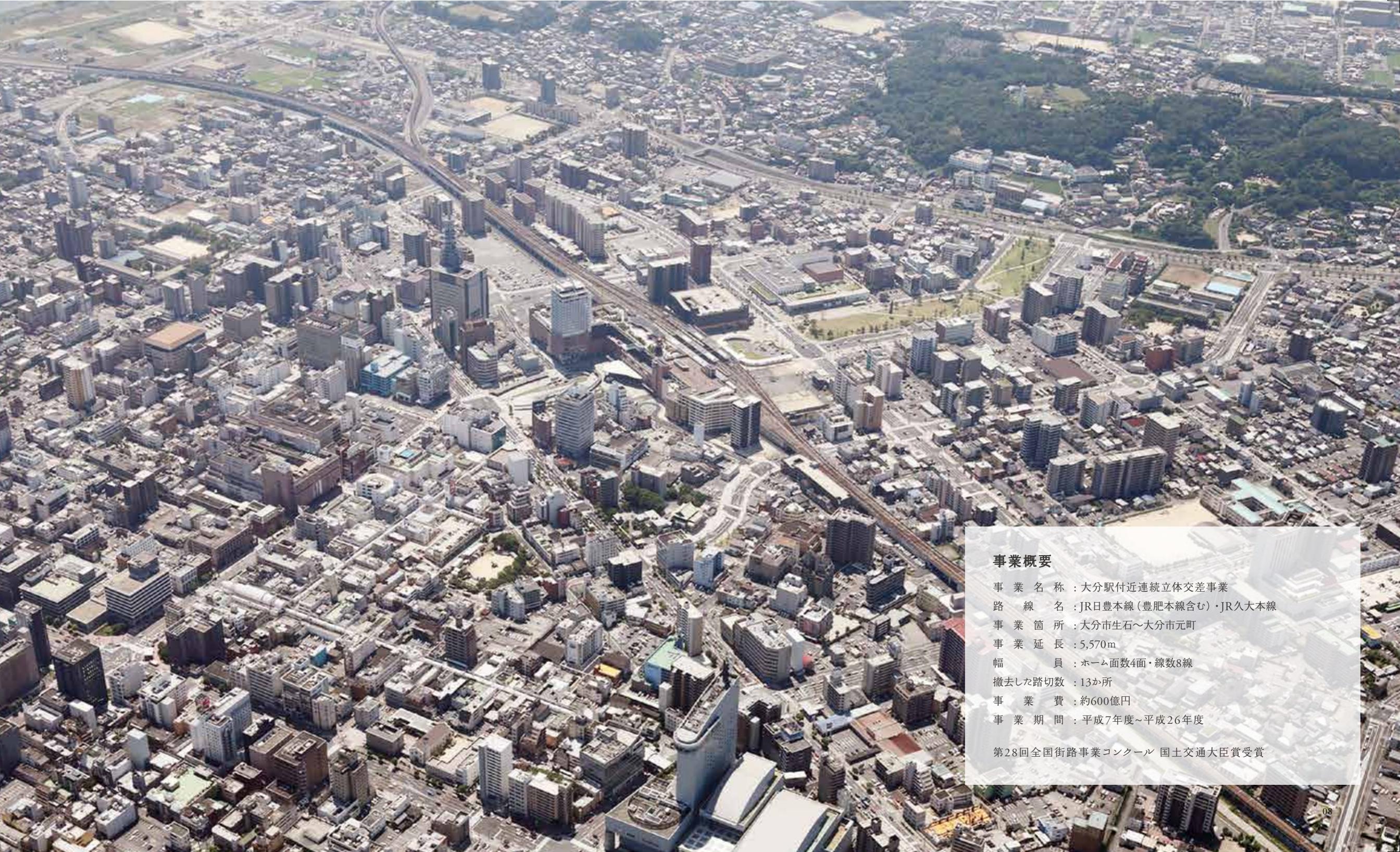
長年渋滞に悩まされた大分駅周辺。

線路によって分断されたまちは

高架化により、駅を中心とした

賑わいの場に生まれ変わりました。

第28回全国街路事業コンクール 国土交通大臣賞受賞



事業概要

事業名称 : 大分駅付近連続立体交差事業
路線名 : JR日豊本線(豊肥本線含む)・JR久大本線
事業箇所 : 大分市生石～大分市元町
事業延長 : 5,570m
幅員 : ホーム面数4面・線数8線
撤去した踏切数 : 13か所
事業費 : 約600億円
事業期間 : 平成7年度～平成26年度

事業効果

歩く人の増加 5倍 ↑

13か所の踏切の撤去に合わせ、交差する街路を整備し、安全な歩行空間が確保されたことにより、歩く方が増えました。

歩行者交通量	
約140人	(H22 高架化前)
約720人	(H25 高架化後)
自転車交通量	
約300台	(H22 高架化前)
約1400台	(H25 高架化後)



駅を挟んだ南北の移動がスムーズに

高架化に伴い、自由通路が設置されたことで、駅を挟んだ南北のアクセスが改善され、駅を中心に賑わいが生まれました。



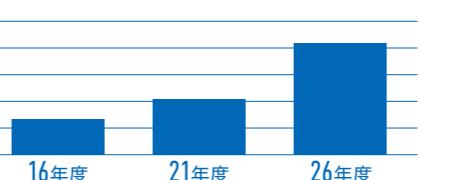
その他の事業効果

駅周辺の交通が円滑化 2.5倍



駅周辺の開発が進展 約3倍

10年間で 床面積が
約3倍



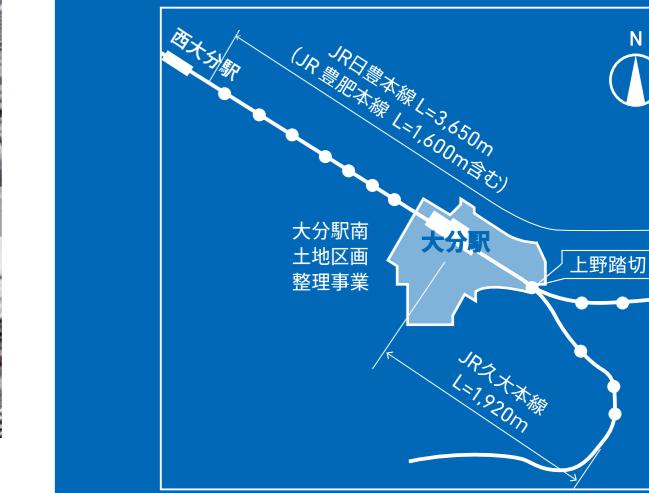
※特に共同住宅、店舗、事務所等の面積増
土地区画整理事業と一体的に事業を行ったことによって、商業施設等の立地が進み、駅周辺の商業用地の地価も上昇傾向にあります。



まちの変化



踏切の撤去で
車や人、そして
まちが動きだす。



大分駅周辺地区は、鉄道により南北に分断されており、市街地の一体的発展を妨げ、踏切の遮断による、交通渋滞や事故の発生など、様々な弊害が生じていました。そこで、連続立体交差事業による13か所の踏切撤去とあわせ、関連する都市計画道路の整備や土地区画整理事業等を大分駅周辺総合整備事業として一体的に行いました。

その結果、交通渋滞が解消されるとともに、歩行者や自動車などの通行空間が分離されることによって、安全な都市空間の確保が実現。

また、分断されていた南北が一体化されることにより、大分駅を中心とした賑わいが生まれ、「大分の顔」にふさわしい質の高い魅力ある都心へと生まれ変わりました。

のんびり歩く。
歩けるまちには
良い時間が流れています。

武家屋敷群やさくらが名所の角館。
歴史・文化・観光を活かした道づくりにより、
「みちのくの小京都」角館にふさわしい
歩きたくなる街並みが形成されました。



100

事業名称：仙北都市計画道路事業3・4・9号横岡
事業箇所：秋田県仙北市角館町
事業延長：280m
幅員：16~17m
事業費：約33億円
事業期間：平成6年度~平成26年度
※写真は武家屋敷通り

第28回全国街路事業コンクール 特別

事業効果

観光客数

3倍増

※桜まつり期間中

通過交通の流入が抑制されたことで、武家屋敷通りが歩行者優先の道となり、観光地を安心して散策できる環境になりました。また、排気ガスや振動等から歴史的環境の保全にも貢献しています。



自動車交通量が2倍増

約2,700台



約5,200台

重要伝統的建造物群保存地区に位置している武家屋敷通りを歩行者優先の道にするため、横町線を含む市街地環状道路を整備。

これにより、周辺道路からの交通が転換され、横町線の交通量が増加しました。



その他の事業効果

観光商業地の再生 地域の賑わい創出

街並みに調和するようなデザイン照明灯などを整備し、沿道の建物の意匠も町家風に統一され、歴史ある角館に相応しい観光商業地へと再生。沿道には、民間主導で「食・農・観」の複合拠点施設が誕生し、地域の賑わいづくりの核として期待されています。



角館らしい景観を創出(横町線)

「みちのくの小京都」角館にふさわしい街並みを形成

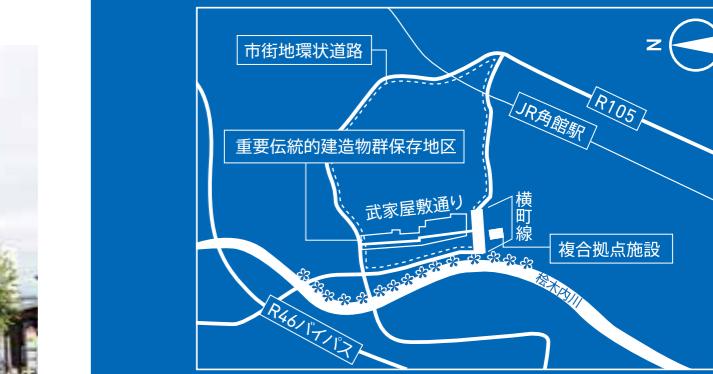


生育環境の確保と道路空間の確保を両立

曳家により、国登録有形文化財(渡辺家)を保存

町家風旅籠をイメージ

目指したものは
角館にふさわしいまち



多くの観光客が訪れる角館は、通過・観光車両が流入することで、渋滞が発生し、観光客と車が接近するなど、安全確保に課題がありました。

そこで、観光名所を囲む市街地環状道路（横町線）を整備し、通過交通の流入を抑制しました。

その結果、武家屋敷通りが歩行者優先の道となり、一年を通して観光地を安心して散策できる環境になりました。

また、横町線の拡幅整備にあたり、沿道に存在していた国指定天然記念物のシダレザクラを、歩道幅員の変更によって歩道空間に取り込むことで、シダレザクラの保存と道路空間との両立を図りました。

さらに、地元と街並みルールを定めた「景観協定」を締結し、沿道の建物の外観が、黒と白を基調とした町家風の意匠に統一され、歴史ある角館に相応しい街並みが形成されました。